

住民こそ主人公・住民のための市政を

明日の相模湖

No. 910

2025年 1月号

発行：日本共産党相模湖支部

住所：相模原市緑区寸沢嵐794-3

宮崎あき子気付

電話：042(685)1046

mail: jcpsagamiko@gmail.com

昨年10月の総選挙で自民、公明の与党が衆議院で過半数割れし、その政治的激動が続く中での2025年の幕開けです。

総選挙での「自公ノー」の厳しい審判によって、自民党政治に代わる「新しい政治」を模索・探求する新しい政治プロセスが始まっています。国民の声にこたえ、各党が行き詰まった自民党政治に代わる「新しい政治」の道筋を示すことができるかどうか、その真価が問われています。

真の政治改革で希望の年に

自公への審判の大きな要因が裏金問題でした。裏金問題の解明と対策に国民の納得が得られなければ、夏の都議選、参院選で自民党、公明党に再び厳しい審判が下され、参院でも自公が過半数割れに陥る可能性があります。

裏金問題の真相解明、企業・団体献金禁止は通常国会へと先送りされましたが、引き続き最大焦点となります。

自民党はあくまで企業・団体献金に固執しています。巨額の政党助成金を受け取ると同時に、企業・団体に政治

謹賀新春

新年おめでとうございます。

昨年の総選挙で、自公政権が少数与党に追い込まれた最大の要因は、裏金問題をスクープした「しんぶん赤旗」の影響が大きかったといわれています。そのことは大きな誇りですが、残念ながら議席は後退させてしまいました。今年は都議選、参議院選が予定されています。

諸要求実現と選挙での前進をめざして頑張ります。引き続き大きなご支援をよろしくお願い致します。

2025年 1月

日本共産党相模湖支部



資金を依存する体質を改められない状況になっています。

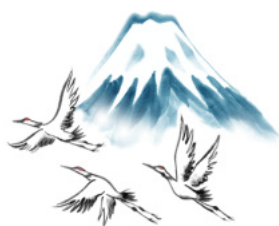
二つのゆがみをただす

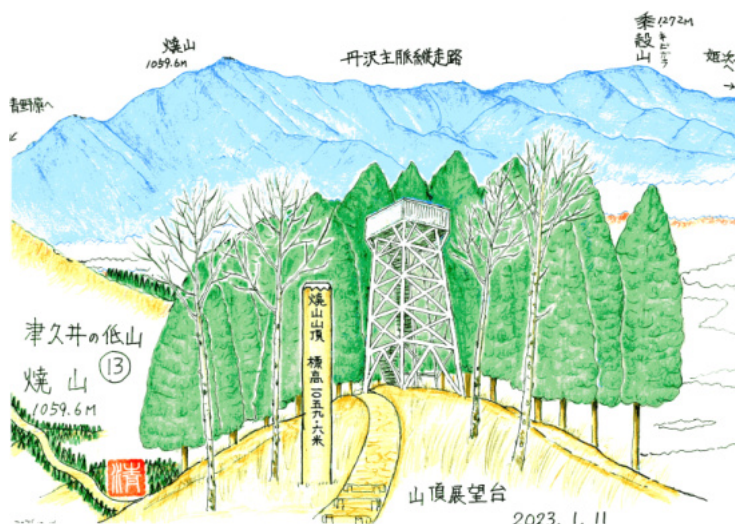
企業・団体献金への依存は、政治腐敗の問題だけでなく、大企業優位の税財政のゆがみと不可分です。大企業の利益優先の政治が、日本経済の土台をも掘り崩し、「失われた30年」という経済停滞をもたらしています。

日本共産党は新たな局面のもとで、国民の切実な要求実現に全力を尽くすとともに、日本の政治の「二つの異常」をおおもとからただすことを提起しています。

一つは、財界・大企業中心の政治のゆがみをただすことです。巨額の利益を得ている大企業や富裕層への利益優先の政治の是正が必要です。

もう一つがアメリカいいなり政治の転換です。アメリカを喜ばせる大軍拡予算はアジアの軍事的緊張を激化させるだけです。憲法9条に基づく平和外交への転換は急務です。





2023. 1. 11

自然観察シリーズ NO. 578 山

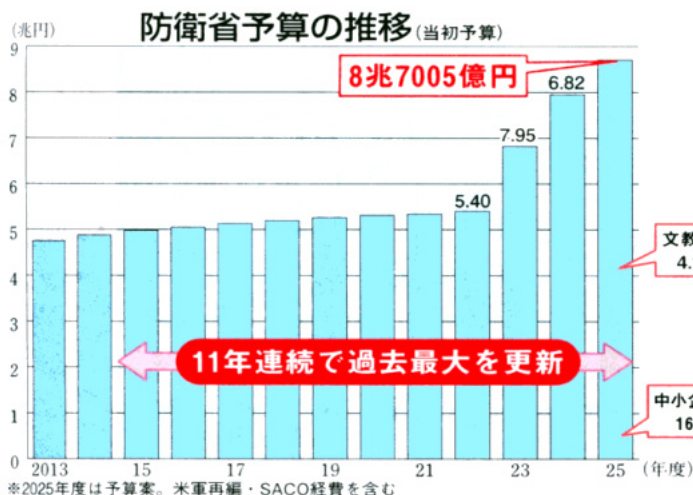
津久井の低山 ⑬ 焼山（一〇五九・六M）

焼山は丹沢の主脈縦走路にあり、青野原の焼山登山口から登って、最初のピークです。私は登山口近くの諏訪神社で安全登山を祈願して出発しました。登り出して暫く、杉や松の林の中を進

んで行きます。そのうち尾根道になると雑木林になり、明るくなり、周囲の眺めも多少見えるようになります。その先登山道の傾斜がきつくなり、乾いた砂混じりでザラザラとすべりやすく、ロープが付いているので気を付けて登ります。危険な所を登り切れば再び杉林になり頂上は近いです。シラカバの木が植えられていてその上が山頂です。標高は約一、〇六〇Mで、青根・青野原・鳥屋の境界になっていて、山頂に10M位の鉄骨展望台が建っています。さっそく登って見ると、近く青い湖面の宮ヶ瀬湖が見下ろせ、北東方面は広く関東平野、遠くに日光連山まで確認でき、北西は高尾山から生藤山、上野原方面が見えました。しかし、西方にはこれから続く丹沢の山々で富士山が見えないのが残念です。

焼山の名は、昔は麓の家の茅葺屋根の材料を採る茅場だったので、定期的に山を焼いていたとの説明板がありました。

（二〇二三年一月十一日歩く）



軍事費 文教予算の2倍に

石破政権は2025年度予算案で、軍事費（防衛省予算）に、初の8兆円超えとなる8兆7005億円を計上しました（グラフ）。

24年度より約7500億円（約9%）増え、11年連続で過去最大を更新。

軍事費の規模は、文教関係費（4兆1275億円）の2・1倍、中小企業対策費（1695億円）の約51倍に達します。大軍拡が暮らしを支える予算を圧迫しています。